

[試験紹介]

水稲栽培におけるペースト二段施肥技術の検証

ペースト二段施肥は、水稲の移植時にペースト肥料を上層と下層の二層に分けて側条施肥する、主に軽労化を目的とした技術です。上層の肥料は初期生育促進を図り、下層の肥料は生育後半に吸収利用されるため、追肥作業を省略できます。また、ペースト肥料は肥料袋の持ち運びをする必要がなく、補給作業を軽労化することが可能で、肥料袋や被覆肥料の殻などのプラスチック排出を削減できる等の利点があります。

本年度は、5月下旬にペースト肥料専用田植え機で移植を行い、生育・収量を調査するとともに、生産費の調査や試算を行い効果の指標化を目指します。



写真1 ペースト肥料の補給



写真2 ペースト肥料用田植え機

(水稲研究室)

[試験紹介]

果実袋を用いた「にっこり」の日焼け対策

昨年夏の猛暑により、県南・県中において「にっこり」に日焼け症状が多発しました。これまで主に県南地域では「にっこり」の果肉障害軽減のために果実袋をかぶせる事例がありましたが、袋内の温度が高くなりすぎたことで、かえって日焼け症状の発生が多くなる傾向が見られました。そこで、今回柑橘などで使用されている通気性のある合成繊維素材の果実袋を用いた日焼け果の抑制効果について、センター内果樹園及び現地試験で検証を行っています。

また、果実への日射量を抑えるために、通常よりも枝を多く配置するなどの剪定方法による改善策の検討も併せて行っています。



写真 合成繊維素材の果実袋

(果樹研究室)